

今年も ^{てが}手賀・資源を守る会で 「田んぼの生き物調査」が行われました。

農業・農村は、県土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成などの「多面的機能」を有しています。鹿行管内では、38組織が、この「多面的機能」の維持・発揮を支える地域の共同活動を支援する「多面的機能支払交付金」制度を活用し活動しています。

行方市内の活動組織「手賀・資源を守る会」は、「田んぼの生き物調査隊」と称し、地元子供会と連携した生き物調査を毎年行っています。同調査では将来を担う地域の子供たちに対し、活動地区周辺の田んぼや水路に生息する魚や昆虫などの生息状況を把握し、その生態に興味を持ってもらうことで、身近な農村環境を守り、大事にしていくことの大切さを知ってもらうことを目指しています。



今年は8月10日（月）に、地区内の田んぼや水路の周りを地域の子供たちとその保護者約20名と一緒に散策しました。

散策の途中で足を止めて稲の生育状況や、田んぼの水をきれいにしてくれるタニシ等の観察を行いました。また水路では、ザリガニ、タナゴなどを見つけることができました。

← 田んぼの散策の様子

生き物調査後には、田んぼの排水が流れる水路での水質検査を行いました。

水質検査には環境学習の教材として、幅広く用いられているパックテストを利用しました。当日は、水質汚濁の指標であるCOD（化学的酸素要求量）や、植物の生育に関与するpH（水素イオン濃度指数）の測定を行い、自然環境と水質の関係性について学びました。

水質検査の様子 →



多面的機能支払交付金については、鹿行農林事務所土地改良部門 HP 内の以下のページをご確認ください。

(<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/rokkonourin/tochi/tochikai/h25/tamenteki.html>)